

2020年3月期 決算短信(日本基準)(連結)

2020年5月14日

上場会社名 株式会社免疫生物研究所
 コード番号 4570 URL <http://www.ibl-japan.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 清藤 勉
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役事業グループ管理本部長 (氏名) 中川 正人
 定時株主総会開催予定日 2020年6月26日 有価証券報告書提出予定日 2020年6月29日
 配当支払開始予定日
 決算補足説明資料作成の有無 : 有
 決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東

TEL 0274-22-2889

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期の連結業績(2019年4月1日～2020年3月31日)

(1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期	576	26.2	595		678		668	
2019年3月期	781	3.0	173		155		167	

(注) 包括利益 2020年3月期 668百万円 (%) 2019年3月期 167百万円 (%)

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後1株当たり当期純利益	自己資本当期純利益率	総資産経常利益率	売上高営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
2020年3月期	76.00		32.7	25.3	103.2
2019年3月期	19.82		8.1	5.0	22.2

(参考) 持分法投資損益 2020年3月期 94百万円 2019年3月期 百万円

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2020年3月期	2,372	1,948	82.0	208.97
2019年3月期	2,988	2,145	71.7	245.47

(参考) 自己資本 2020年3月期 1,946百万円 2019年3月期 2,141百万円

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動によるキャッシュ・フロー	投資活動によるキャッシュ・フロー	財務活動によるキャッシュ・フロー	現金及び現金同等物期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
2020年3月期	608	10	81	974
2019年3月期	243	593	126	1,491

2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額(合計)	配当性向(連結)	純資産配当率(連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
2019年3月期		0.00		0.00	0.00			
2020年3月期		0.00		0.00	0.00			
2021年3月期(予想)		0.00		0.00	0.00			

3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日～2021年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期									

2021年3月期の連結業績予想については、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大の影響により、研究活動や経済活動等が制限される中、現時点では、収束時期の見通しが立っていないことから、連結業績予想の合理的な算定は困難であるため、未定とさせていただきます。今後、業績予想の算定が可能になった時点で、速やかに公表いたします。

なお、中期経営計画につきましても同様の理由により、未定とさせていただきます。算定が可能になった時点で、速やかに公表いたします。

注記事項

- (1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
 新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 以外の会計方針の変更 : 無
 会計上の見積りの変更 : 無
 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2020年3月期	9,314,590 株	2019年3月期	8,724,590 株
期末自己株式数	2020年3月期	1,130 株	2019年3月期	1,130 株
期中平均株式数	2020年3月期	8,790,399 株	2019年3月期	8,438,028 株

(参考)個別業績の概要

2020年3月期の個別業績(2019年4月1日～2020年3月31日)

(1) 個別経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期	500	20.7	516		503		547	
2019年3月期	630	2.0	180		159		179	

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後1株当たり当期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期	62.24	
2019年3月期	21.21	

(2) 個別財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2020年3月期	2,439	2,064	84.5	221.41
2019年3月期	2,911	2,140	73.4	244.88

(参考) 自己資本 2020年3月期 2,062百万円 2019年3月期 2,136百万円

決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、3ページの「1. 経営成績等の概況 (4) 今後の見通し」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当期の経営成績の概況	2
(2) 当期の財政状態の概況	3
(3) 当期のキャッシュ・フローの概況	3
(4) 今後の見通し	3
2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方	6
3. 連結財務諸表及び主な注記	7
(1) 連結貸借対照表	7
(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書	8
(3) 連結株主資本等変動計算書	9
(4) 連結キャッシュ・フロー計算書	10
(5) 連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(セグメント情報等)	11
(1株当たり情報)	14
(重要な後発事象)	14

1. 経営成績等の概況

(1) 当期の経営成績の概況

当連結会計年度における我が国経済は、新型コロナウイルスが全世界に影響を及ぼし、厳しい状況となっております。今後についてもより大きな影響を及ぼす恐れがあり、予断を許さない状況にあります。また当社グループが属する医薬品業界は、国内においては薬価制度の抜本改革、後発医薬品の使用促進や医療費抑制の流れにより厳しいものとなっております。こうした状況のもと、当社グループの業績につきましては、診断・試薬事業、検査事業及び化粧品関連事業における売上高が大きく落ち込んだことが影響し、売上高は576,692千円（前年同期比26.2%減）となりました。販売費及び一般管理費については、遺伝子組換えカイコ事業において、ヒト型コラーゲンIおよびⅢの生産力増強を図り三笠研究所の改修工事をおこなったことや抗HIV抗体をはじめとするバイオ医薬品開発の進捗に伴い研究開発費が増加したこと、および診断・試薬事業部門において医薬用体外診断薬の開発・製造・販売の強化を図るため、本社（藤岡研究所）内に管理製品保管庫棟を新設いたしました。その結果、営業損失は595,359千円（前年同期は173,680千円の営業損失）となりました。また営業外損益につきましては、持分法による投資損失94,290千円等を計上いたしました。その結果、経常損失は678,762千円（前年同期は155,747千円の経常損失）となりました。特別損益につきましては、関係会社株式売却益15,917千円の計上や持分法適用会社の持分割合変動による持分変動利益4,390千円を計上しております。以上により、親会社株主に帰属する当期純損失は668,125千円（前年同期は167,319千円の親会社株主に帰属する当期純損失）となりました。

<診断・試薬事業>

研究用試薬関連の売上高につきましては、抗体製品は、脳神経関連の抗体や海外企業向けIVD原料の販売が好調に推移し、国内販売、海外販売ともに前年同期比で増加しております。一方、主力のEIAキットは、海外販売につきましては販売代理店網を充実させ前期までは順調に販売増加となりましたが、当期はCRO向けの大型プロジェクトの終了等により前年に比べ大幅に減少となってしまいました。国内販売におきましても、第4四半期の年度末需要が予想を大幅に下回ったことや試薬市場の停滞、新製品上市の遅れ等の影響により、前年同期と比べ大幅に減少しております。また、試薬受託の売上も前年同期比で減少となっております。

医薬用関連の売上高につきましては、主力である動物用体外診断用医薬品の牛海綿状脳症測定キット（BSEキット）の需要縮小や欧州向けに原料供給をしている製品の販売が減少したこと等により、前年に比べ大幅に減少しております。

その結果、当セグメントの売上高は471,203千円（前年同期比19.9%減）、営業損失は124,457千円（前年同期は67,079千円の営業利益）となりました。

<遺伝子組換えカイコ事業>

当事業においては、各種抗体や受託等の売上が前年同期に比べ増加しておりますが、現段階においては遺伝子組換えカイコを用いた医薬品製造を実現させるべく、前期に引き続き抗HIV抗体をはじめとするバイオ医薬品開発ならびに、その製造技術の開発を進めているところであり、事業の重点を研究開発に置いております。また、「抗HIV抗体及びその製造方法」に関する国内特許の共同出願手続きを完了しており（2019年9月17日開示『「抗HIV抗体及びその製造方法」に関する特許出願のお知らせ』参照）、当該研究については、着実にその成果に向けて進捗しております。

その結果、当セグメントの売上高は25,245千円（前年同期比17.5%減）、営業損失は391,891千円（前年同期は247,914千円の営業損失）となりました。

<検査事業>

当事業においては、主力事業の血中リポタンパク質プロファイリングサービス「LipoSEARCH」において、大型案件が例年受注できておりましたが、当期につきましては中規模から小規模案件が中心となり、受注案件数自体も減少したことから、昨年来の売上を大きく減少させることになりました。また、解析システムの早期海外導出を目指してまいりましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、導出予定企業との商談が停止となり、未だ受注には至っておりません。こうしたことから前年同期と比較して売上が大幅に減少しております。一方で、動物向けサービスの「LipoTEST」においては、ほぼ前年並みの売上を維持しております。

その結果、当セグメントの売上高は71,636千円（前年同期比43.8%減）、営業損失は26,227千円（前年同期は12,847千円の営業利益）となりました。

<化粧品関連事業>

当事業においては、「ネオシルク®-ヒト型コラーゲンI」配合化粧品「フレヴァン」シリーズにつきまして、国内通信販売の売上は前年同期と比較し微減となりましたが、欧州向け出荷が開始されました。また、中国向けの商標問題および販売は、アルファベット名「frais vent」の商標登録について、当局の情報を継続して収集し対応しておりましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により当局及び取引先との連絡が取れない状況となりました。そのため、中国向け販売が再開出来ず、前年同期と比べ大幅に減少しております。

その結果、当セグメントの売上高は12,873千円（前年同期比69.9%減）、営業損失は、当初中国へ向けて販売を計画していた製品について、中国への出荷時期の目途が立たないため、中国向け製品の評価損を保守的に計上したこともあり53,741千円（前年同期は6,654千円の営業損失）となりました。

(2) 当期の財政状態の概況

・ 流動資産

当連結会計年度における流動資産の残高は、前連結会計年度と比較して24.6%減の1,592,990千円となりました。この主な要因は、新株予約権行使による増資での資金増加要因はありましたが、営業キャッシュ・フローでの資金の支出の影響が大きかったことにより「現金及び預金」が減少したこと等によるものであります。

・ 固定資産

当連結会計年度における固定資産の残高は、前連結会計年度と比較して11.0%減の779,999千円となりました。この主な要因は、持分法による投資損失等の計上により投資有価証券が90,982千円減少したこと等によるものであります。

・ 流動負債

当連結会計年度における流動負債の残高は、前連結会計年度と比較して27.7%減の397,762千円となりました。この主な要因は社債の償還による「1年内償還予定の転換社債型新株予約権付社債」の77,704千円の減少や約定弁済による「1年内返済予定の長期借入金」の42,956千円の減少及び未払債務の減少等による「その他」の35,686千円の減少等によるものであります。

・ 固定負債

当連結会計年度における固定負債の残高は、前連結会計年度と比較して90.8%減の26,769千円となりました。この主な要因は、発行している転換社債型新株予約権付社債200,000千円の償還期限が1年以内となったため流動負債へ振り替えたこと、及び返済期限が1年以内となった長期借入金66,000千円を流動負債へ振替えたことが大きな要因となっております。

・ 純資産

当連結会計年度における純資産の残高は、前連結会計年度と比較して9.1%減の1,946,291円となりました。この主な要因は、新株予約権の行使により資本金、資本準備金がそれぞれ236,531千円増加したものの、「親会社株主に帰属する当期純損失」668,125千円の計上等により減少となりました。

(3) 当期のキャッシュ・フローの概況

当連結会計年度における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）の期末残高は、前連結会計年度に比べ517,351千円減少し974,456千円となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動により支出した資金は608,746千円（前年は243,935千円の支出）となりました。

この主な要因は、当社グループでは当面の間、購入した有形固定資産及び無形固定資産として計上すべき資産を同勘定科目で計上せず、即時費用処理を行っており、キャッシュ・フロー上もその購入に係る支出は営業キャッシュ・フローとして計上しております。こうしたことと相俟って税金等調整前当期純損失を658,691千円計上したこと等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動により獲得した資金は10,818千円（前年は593,279千円の支出）となりました。

この主な要因は、関係会社株式の売却により17,000千円の収入があったこと等によりものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動により獲得した資金は81,195千円（前年は126,320千円の支出）となりました。

この主な要因は、長期借入金の返済による支出108,956千円や転換社債型新株予約権付社債の償還により支出277,704千円といった資金支出要因はありましたが、新株予約権の行使による株式の発行による収入での資金獲得が467,855千円あったことによるものであります。

(4) 今後の見通し

当社グループにおける新型コロナウイルス感染の影響につきましては、当社グループ内において、従業員の感染防止及び感染拡大防止並びに従業員家族の安全確保のため、テレワークの導入及び外勤営業の自粛並びに交代勤務等の対応策により事業活動の縮小が予想されます。また、国内外の取引先や研究機関においても同様な事業活動となっており、2021年3月期の売上は、厳しい状況が見込みられます。このような状況の中、当社グループのセグメント別の今後の見通しは、次のとおりであります。

なお、2021年3月期の連結業績予想については、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大の影響により、研究活

動や経済活動等が制限される中、現時点では、収束時期の見通しが立っていないことから、連結業績予想の合理的な算定は困難であるため、未定とさせていただきます。今後、業績予想の算定が可能になった時点で、速やかに公表いたします。

なお、中期経営計画につきましても同様の理由により、未定とさせていただきます、算定が可能になった時点で、速やかに公表いたします。

(診断・試薬事業)

当事業においては、国内外の展示会の半数が中止または、延期が決定し、また、国内外の外勤が伴う営業活動も自粛しており、足元の売上は、前年を大きく下回っております。そのような状況の中、電話会議システムによる営業活動や有用情報のメール配信等をこまめに実施し、売上の確保に努めてまいります。また、開発部門においては、人員の強化を図り、新製品開発のスピードアップを図ってまいります。

当事業の研究開発の状況につきましては、下記の通りです。

○医薬品シーズとしての可能性がある研究開発（下線は、前年度記載内容）

アミロイドβに関しては、京都大学、千葉大学と共同で、神経毒性を強く有するといわれている毒性オリゴマーに対する抗体、及び測定系を開発し、発売を開始いたしました。本製品に用いている毒性オリゴマー特異的抗体は、医薬品シーズとしての可能性も考えられるため、モデルマウスによる大規模な治療実験を継続しております。

⇒本研究開発は、4年間以上継続してまいりましたが、医薬シーズに繋がる決定的な成果が得られていないことや現状の当社の財務状況を鑑み、一旦中止とし他の有用な研究開発に資金を集中してまいります。

・（新規記載）

⇒ABCONTEK社と、ダニ媒介性感染症であるSFTSを治療するための抗体医薬品候補「ACT101」を共同開発し、早期に承認を目指し、2023年度の販売開始を目標としております。なお、このSFTSの治療には、現在、対症療法しかなく、死亡例も出ていますが、有効な薬剤やワクチンは開発されていません。

○下記の体外診断用医薬品の上市を目指します。（下線は、前年度記載内容）

・（2020年3月期中販売開始予定）認知症関連タンパク質として、アミロイドβを中心とした種々のタンパク質に対する抗体・測定系の開発を進めており、各種製品を広くラインアップしております。アミロイドβと並び重要なターゲット分子であるタウタンパク質についても測定系を開発し、海外向けに研究用試薬として販売を開始いたしました。また、国内では体外診断用医薬品として上市を目指しております。

⇒（販売開始）国内において、体外診断用医薬品「Tauタンパク-IBL」「pTauタンパク-IBL」をリリース致しました。（2019年11月7日付）

・（2020年3月期中販売開始予定）学校法人埼玉医科大学が所有する、難聴・めまいの原因を生化学的に診断できる世界初のバイオマーカー「CTP(cochlintono-protein)」に関する発明に関して、株式会社コスミックコーポレーションに日本国内での薬事申請・販売の権利を譲渡し、現在、同社が主体となって、体外診断用医薬品の承認申請に向けてデータ採取、資料作成を行い申請準備中であります。なお、同製品の製造は、当社が行います。

⇒（2021年3月期中の販売開始予定）株式会社コスミックコーポレーションは、2019年6月26日に体外診断用医薬品製造販売承認申請をおこない、PMDAと協議を行っております。

・（2021年3月期中販売開始予定）筋ジストロフィー患者の尿中に存在するタイチンというタンパク質に対する、筋ジストロフィーの病気診断・病態のモニタリングマーカーとして測定系を開発し、研究用試薬として販売を開始いたしました。また、国内では体外診断用医薬品として上市を目指しております。

⇒（2022年3月期中販売開始予定）2020年10月に体外診断用医薬品製造販売承認申請を予定し、申請準備中であります。

・（販売開始未定）中性脂肪蓄積心筋血管症（TGCV）は、我が国の心臓移植症例から見出された新規疾患単位であり、心筋細胞、冠動脈血管平滑筋細胞（SMC）に中性脂肪が蓄積することによって、重度の心不全、不整脈、虚血性心疾患などを呈する難病です。大阪大学と共同でTGCV関連タンパクであるATGLに対する抗体及び測定系の開発を行っております。

⇒（販売開始未定）弊社においてATGLに対する抗体及び測定系の開発が終了し、現在、共同研究先において評価を行っております。

・(新規記載)

⇒(2021年3月期中の販売開始予定) クロウ・深瀬(POEMS)症候群は、骨髄の中にある形質細胞という細胞の異常増殖によっておこる疾患で、国の難病に指定されています(指定難病16)。この疾患においては、血清中VEGF(血管内皮増殖因子)値が異常に高値となることが示されており、血清中VEGF値の測定が疾患の診断補助及び治療・経過モニタリングとして有用であることが報告されています。

当社は、製薬企業と共同で、血清中VEGF値を測定する体外診断用医薬品の開発を行い、終了しております。今後は、製薬企業により、製造販売承認の取得、保険適用申請を行ってまいります。また、本製品の安定的な製造、供給は、当社が担当してまいります。

(遺伝子組換えカイコ事業)

当事業では、抗HIV抗体の医薬品原薬として、2023年3月度の導出を目指して、資金と人材を集中し、株式会社CUREDとともに共同開発を推進しております。

《抗HIV抗体の研究開発の状況》

(開示済み内容)

○医薬品製造において最も懸念される遺伝子組換えカイコの系統・バンク管理等に関する当プロジェクトの計画に対して、PMDAより同意を得ることができました。(詳細は、2019年3月4日付け公表「遺伝子組換えカイコによる医薬品製造に関するPMDA戦略相談の結果について」参照)

○遺伝子組換えカイコで生産した抗HIV抗体をウイルス感染カニクイザルに投与する試験を実施し、本抗体によるウイルス抑制効果を確認しました。このように、遺伝子組換えカイコによる抗HIV抗体の製造に関して、その有効性が確認できましたので、当該製造方法の知的財産権を確保するため、特許出願に至りました。(詳細は、2019年9月17日付け公表「抗HIV抗体及びその製造方法」に関する特許出願のお知らせ」参照)

(現時点の状況)

カニクイザルを用いた薬効薬理試験を継続するとともに、製造面においては、GMP準拠の製造体制構築を進めております。カイコの飼育、およびカイコ繭からの抽出・精製に関わる各種製造パラメータを最適化することで、高品質の抗HIV抗体の製造が可能になりました。GMPレベルの品質管理体制の整備も順調に進んでおります。

(今後について)

10万頭規模で遺伝子組換えカイコを飼育し、非臨床試験用原薬の製造を開始します。同時に、抗HIV抗体の有効性および安全性を保証する各種試験を進めます。

(課題)

現在実施している非臨床試験へ向けての抗HIV抗体の開発およびGMP体制下での製造には、数億円単位のコストがかかる見込みであり、資金の需要が増えてまいります。しかしながら、遺伝子組換えカイコ事業を支える他のグループ事業の業績は、新型コロナウイルス感染の影響により業績低迷が予想され、また、株価の低迷により資金調達も厳しい状況のため、研究開発の遅延が予想されます。また、抗HIV抗体の商業化へ向け、製造コストの削減が課題となっております。

当社グループは、上記課題の解決に向け全社一丸となって、邁進してまいります。

※抗HIV抗体の医薬品原料の導出は、2023年3月期中を目指します。

(検査事業)

当事業は、主力商品である、高速液体クロマトグラフィーを用いた独自分析技術によるリポタンパク質プロファイル分析業務「LipoSEARCH」の測定受託サービス、及びIBLのELISA製品を中心としたELISA測定受託サービスを、大手製薬企業、食品関連企業、大学などのアカデミアに対して提供しております。今後さらに、LipoSEARCHに加え、新規サービスも導入してまいります。

営業面においても、診断・試薬事業部門と営業活動を共有化し、特に、IBLのELISA測定受託サービスを中心に販促活動を強化してまいります。

2021年3月期においても、国内では、日本栄養食料学会、日本動脈硬化学会、などへの学会展示、海外では欧米の展示会などへの参加を予定しておりますが、新型コロナウイルス感染の影響により、変更を余儀なくされる可能性もあります。また、海外に向けた測定システムの導出については、具体的な交渉を始めたところですが、同様に、交渉が停滞している状況です。

IBLにおける当事業として、IBL藤岡研究所内に開設した登録衛生検査所「IBL解析センター」では、IBL独自のELISA測定キットを用いた研究検査の受託測定などを開始しております。さらに、大手検査会社との提携により、検査受託を軌道に乗せることを目指してまいります。

(化粧品関連事業)

○国内販売

国内販売においては、通販事業にユーザーを呼び込む施策として、SNSを活用し、新規顧客の獲得を目指してまいります。さらに、カスタマーセンターを強化し、新規顧客から定期顧客への誘導に注力してまいります。

○海外販売（中国）

新型コロナウイルス感染の影響により、中国での商標登録問題の解決及び化粧品市場へのアプローチが出来ませんでしたが、徐々に社会活動も再開され、現地代理人との情報交換も始まっております。

なお、商標（フレヴァン）につきまして、中国向け販売代理店により、フレヴァンの中国語名の商標登録が完了（一度は拒絶されましたが、再審請求の結果、取得）しました。一方、アルファベット名「frais vent」の商標につきましては、現地代理人より連絡があり、下期中の取得を目指してまいります。さらに、化粧品の本格的な販売活動につきましては、第4四半期の開始に向け準備を進めてまいります。

○海外販売（欧州・その他）

欧州に向けて、2020年3月期の第4四半期に販売した「フレヴァン・シリーズ」は、その後の新型コロナウイルス感染拡大により、欧州内の展開がとまり、また、欧州で参加を予定していた世界最大級の展示会も延期となり、現地代理店も在宅勤務で、販売活動が出来ない状況となっております。

○ヒト型コラーゲンⅢ

化粧品業界待望の「ネオシルク®-ヒト型コラーゲンⅢ（ベビーコラーゲン）」は、2020年3月期中の販売を予定しておりましたが、北海道三笠研究所の飼育施設改修の遅れや北海道内における新型コロナウイルス感染の影響により新規の飼育員の確保が困難になり、2021年3月期にずれ込むこととなりました。出来るだけ早期に大量飼育の体制を整え、販売開始を目指してまいります。

2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社では現在、日本基準を適用して財務諸表を作成しております。今後も日本基準の適用を継続していく予定であります。

3. 連結財務諸表及び主な注記

(1) 連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,543,966	1,033,617
受取手形及び売掛金	208,985	171,093
商品及び製品	91,509	56,963
仕掛品	127,215	133,522
原材料及び貯蔵品	118,769	154,302
その他	21,332	43,489
流動資産合計	2,111,776	1,592,990
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	810,163	773,283
減価償却累計額	△810,163	△773,283
建物及び構築物(純額)	—	—
機械装置及び運搬具	73,948	73,948
減価償却累計額	△73,948	△73,948
機械装置及び運搬具(純額)	—	—
土地	114,019	113,781
その他	587,504	567,642
減価償却累計額	△587,504	△567,642
その他(純額)	—	—
有形固定資産合計	114,019	113,781
無形固定資産		
—	—	—
投資その他の資産		
投資有価証券	686,555	595,572
繰延税金資産	4,437	—
その他	71,525	70,645
投資その他の資産合計	762,517	666,217
固定資産合計	876,537	779,999
資産合計	2,988,314	2,372,989
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,784	4,978
1年内返済予定の長期借入金	108,956	66,000
1年内償還予定の転換社債型新株予約権付社債	277,704	200,000
未払法人税等	17,025	20,171
賞与引当金	18,189	18,537
その他	123,762	88,075
流動負債合計	550,422	397,762
固定負債		
長期借入金	86,000	20,000
転換社債型新株予約権付社債	200,000	—
退職給付に係る負債	6,128	6,769
固定負債合計	292,128	26,769
負債合計	842,550	424,532
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,792,510	3,029,041
資本剰余金	1,824,890	2,061,421
利益剰余金	△2,474,056	△3,142,182
自己株式	△1,990	△1,990
株主資本合計	2,141,355	1,946,291
新株予約権	4,408	2,166
純資産合計	2,145,763	1,948,457
負債純資産合計	2,988,314	2,372,989

(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書
連結損益計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
売上高	781,215	576,692
売上原価	320,925	359,355
売上総利益	460,290	217,337
販売費及び一般管理費		
役員報酬	36,324	38,124
給料及び手当	91,175	97,254
賞与	5,814	5,652
賞与引当金繰入額	6,081	6,245
退職給付費用	5,031	3,085
法定福利費	17,389	17,591
旅費及び交通費	12,887	13,704
支払報酬	44,751	47,547
研究開発費	236,668	318,353
その他	177,847	265,136
販売費及び一般管理費合計	633,971	812,696
営業損失(△)	△173,680	△595,359
営業外収益		
受取利息	70	86
受取配当金	600	600
為替差益	4,206	—
助成金収入	15,006	11,429
保険解約返戻金	—	2,725
その他	1,685	1,683
営業外収益合計	21,569	16,524
営業外費用		
支払利息	1,347	932
為替差損	—	1,737
新株発行費	2,232	2,964
持分法による投資損失	—	94,290
その他	55	2
営業外費用合計	3,636	99,928
経常損失(△)	△155,747	△678,762
特別利益		
持分変動利益	—	4,390
関係会社株式売却益	—	15,917
特別利益合計	—	20,308
特別損失		
減損損失	8,255	237
特別損失合計	8,255	237
税金等調整前当期純損失(△)	△164,002	△658,691
法人税、住民税及び事業税	4,752	4,996
法人税等調整額	△1,435	4,437
法人税等合計	3,317	9,433
当期純損失(△)	△167,319	△668,125
親会社株主に帰属する当期純損失(△)	△167,319	△668,125

連結包括利益計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
当期純損失(△)	△167,319	△668,125
包括利益	△167,319	△668,125
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	△167,319	△668,125
非支配株主に係る包括利益	—	—

(3) 連結株主資本等変動計算書

前連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本					新株予約権	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計		
当期首残高	2,636,302	1,668,682	△2,289,625	△1,990	2,013,369	4,408	2,017,777
当期変動額							
親会社株主に帰属する当期純損失(△)			△167,319		△167,319		△167,319
持分法の適用範囲の変動			△17,111		△17,111		△17,111
新株の発行(新株予約権の行使)	156,208	156,208			312,417		312,417
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					—		—
当期変動額合計	156,208	156,208	△184,431	—	127,985	—	127,985
当期末残高	2,792,510	1,824,890	△2,474,056	△1,990	2,141,355	4,408	2,145,763

当連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本					新株予約権	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計		
当期首残高	2,792,510	1,824,890	△2,474,056	△1,990	2,141,355	4,408	2,145,763
当期変動額							
親会社株主に帰属する当期純損失(△)			△668,125		△668,125		△668,125
持分法の適用範囲の変動					—		—
新株の発行(新株予約権の行使)	236,531	236,531			473,062		473,062
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					—	△2,242	△2,242
当期変動額合計	236,531	236,531	△668,125	—	△195,063	△2,242	△197,305
当期末残高	3,029,041	2,061,421	△3,142,182	△1,990	1,946,291	2,166	1,948,457

(4) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純損失 (△)	△164,002	△658,691
減損損失	8,255	237
受取利息及び受取配当金	△670	△686
支払利息	1,347	932
為替差損益 (△は益)	△4,468	618
新株発行費	2,232	2,964
持分法による投資損益 (△は益)	—	94,290
持分変動損益 (△は益)	—	△4,390
関係会社株式売却損益 (△は益)	—	△15,917
売上債権の増減額 (△は増加)	△5,871	37,891
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△59,795	△7,295
仕入債務の増減額 (△は減少)	△2,988	193
未払金の増減額 (△は減少)	8,482	△24,641
未収消費税等の増減額 (△は増加)	△11,670	△19,020
その他	△9,787	△8,426
小計	△238,936	△601,940
利息及び配当金の受取額	670	686
利息の支払額	△1,251	△843
法人税等の支払額	△4,417	△6,648
営業活動によるキャッシュ・フロー	△243,935	△608,746
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金等の預入による支出	△62,157	△62,161
定期預金等の払戻による収入	68,153	56,157
関係会社株式の取得による支出	△598,400	—
関係会社株式の売却による収入	—	17,000
その他	△876	△178
投資活動によるキャッシュ・フロー	△593,279	10,818
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	10,000	—
長期借入れによる収入	30,000	—
長期借入金の返済による支出	△164,088	△108,956
転換社債型新株予約権付社債の償還による支出	—	△277,704
新株予約権の行使による株式の発行による収入	—	467,855
その他	△2,232	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△126,320	81,195
現金及び現金同等物に係る換算差額	4,468	△618
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△959,067	△517,351
現金及び現金同等物の期首残高	2,450,875	1,491,808
現金及び現金同等物の期末残高	1,491,808	974,456

(5) 連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、当連結累計期間において新株予約権の行使に伴う新株発行を実施いたしました。この結果、当第38期連結累計期間において資本金及び資本準備金がそれぞれ236,531千円増加し、当連結会計期間末において資本金が3,029,041千円、資本剰余金が2,061,421千円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

(1) 報告セグメントの決定方法

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検証を行う対象となっているものであります。

当社グループは、事業別に区分された事業ごとに国内及び海外の包括的な事業戦略を立案し、事業活動を展開しております。したがって当社グループは、事業内容を基礎とした「診断・試薬事業」、「遺伝子組換えカイコ事業」、「検査事業」及び「化粧品関連事業」の4つを報告セグメントとしております。

(2) 報告セグメントに属する製品及びサービスの種類

「診断・試薬事業」は、研究用試薬関連の製造・仕入及び販売を行うとともに、医薬用関連は、医薬品の研究開発及び体外診断用医薬品の製造・仕入及び販売を行っております。「遺伝子組換えカイコ事業」は「遺伝子組換えカイコ」の繭を用いた関連製品の販売を行うとともに、医薬品原料の研究開発を重点的に行っております。「検査事業」は脂質代謝解析技術を利用した生活習慣病領域での創薬・研究支援に加え、予防・診断支援などを行っております。また、「化粧品関連事業」は化粧品等の販売を行っております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント					調整額 (注)2	連結 財務諸表 計上額
	診断・試薬 事業	遺伝子組換え カイコ事業	検査事業	化粧品関連 事業	合計		
売上高							
外部顧客への売上高	582,778	30,232	125,400	42,803	781,215	—	781,215
セグメント間の 内部売上高又は振替高	5,235	373	1,992	—	7,601	△7,601	—
計	588,014	30,606	127,392	42,803	788,817	△7,601	781,215
セグメント利益又は損失 (△)	67,079	△247,914	12,847	△6,654	△174,640	960	△173,680
セグメント資産	1,906,031	855,351	101,986	124,945	2,988,314	—	2,988,314
セグメント負債	695,363	74,147	24,992	48,047	842,550	—	842,550
その他の項目							
減価償却費	—	—	—	—	—	—	—
有形固定資産及び無形 固定資産の増加額	—	—	—	—	—	—	—

(注) 1. セグメント損失は連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. セグメント損失の調整額960千円には、セグメント間取引消去960千円が含まれております。

当連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント					調整額 (注)2	連結 財務諸表 計上額
	診断・試薬 事業	遺伝子組換え カイコ事業	検査事業	化粧品関連 事業	合計		
売上高							
外部顧客への売上高	468,614	25,245	69,959	12,873	576,692	—	576,692
セグメント間の 内部売上高又は振替高	2,588	—	1,677	—	4,266	△4,266	—
計	471,203	25,245	71,636	12,873	580,958	△4,266	576,692
セグメント利益又は損失 (△)	△124,457	△391,891	△26,227	△53,741	△596,319	960	△595,359
セグメント資産	1,486,688	769,223	60,806	56,270	2,372,989	—	2,372,989
セグメント負債	313,907	60,943	7,742	41,939	424,532	—	424,532
その他の項目							
減価償却費	—	—	—	—	—	—	—
有形固定資産及び無形 固定資産の増加額	—	—	—	—	—	—	—

(注) 1. セグメント損失は連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. セグメント損失の調整額960千円には、セグメント間取引消去960千円が含まれております。

【関連情報】

前連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

(単位：千円)

	診断・試薬事業	遺伝子組換え カイコ事業	検査事業	化粧品関連事業	合計
外部顧客への売上高	582,778	30,232	125,400	42,803	781,215

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：千円)

日本	米国	ドイツ	その他	合計
604,849	84,409	59,790	32,166	781,215

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
岩井化学薬品㈱	82,812	診断・試薬事業

当連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

(単位：千円)

	診断・試薬事業	遺伝子組換え カイコ事業	検査事業	化粧品関連事業	合計
外部顧客への売上高	468,614	25,245	69,959	12,873	576,692

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：千円)

日本	米国	ドイツ	その他	合計
430,231	81,444	39,206	25,809	576,692

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
岩井化学薬品(株)	54,534	診断・試薬事業、遺伝子組換えカイコ事業

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント				
	診断・試薬事業	遺伝子組換え カイコ事業	検査事業	化粧品関連事業	計
減損損失	235	8,019	—	—	8,255

当連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント				
	診断・試薬事業	遺伝子組換え カイコ事業	検査事業	化粧品関連事業	計
減損損失	237	0	—	—	237

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
1株当たり純資産額	245.47円	208.97円
1株当たり当期純損失(△)	△19.82円	△76.00円

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり当期純損失であるため記載しておりません。

2. 1株当たり当期純損失の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
親会社株主に帰属する当期純損失(千円)(△)	△167,319	△668,125
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する 当期純損失(千円)(△)	△167,319	△668,125
普通株式の期中平均株式数(株)	8,438,028	8,790,399
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり 当期純利益の算定に含まれなかった潜在株式の概要	新株予約権の数 144個 (内訳) 第1回無担保転換社債型新株 予約権 20個 第2回無担保転換社債型新株 予約権 8個 第3回新株予約権 116個	新株予約権の数 77個 (内訳) 第1回無担保転換社債型新株 予約権 20個 第3回新株予約権 57個

(重要な後発事象)

該当事項はありません。